

令和6年度 鳥取県議会台湾訪問団 報告書

〔2024年10月28日(月)～11月1日(金)〕



《中華民国自転車騎士協会・何 秘書長（前列左端）と台湾体育運動大学学生ほかの皆さんと》

鳥取県議会

1 訪問日程及び訪問先

令和6年10月28日（月）～11月1日（金）

台湾（台北市、台中市）

※詳細は「4 日程表」のとおり

2 訪問団メンバー

団 長 齊 木 正 一 議員

副団長 福 田 俊 史 議員

秘書長 入 江 誠 議員

野 坂 道 明 議員

前 住 孝 行 議員

<随 行> 議会事務局 調査課 課長補佐 田 中 亜由美

調査課 係 長 友 定 晋 也

観光交流局 交流推進課 国際交流員 史 耘

3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会による台湾訪問団は、観光振興やインバウンド誘客の現状や課題把握、県産品の販路拡大及び学校間交流の更なる促進を図るため、本県と台中市との地域間交流の現状と課題、県産品の輸出拡大及び教育旅行の取組等について調査することを目的に、台北市、台中市を訪問した。

日本と台湾は、1972年の日中共同声明により国家間の正式な国交を失ったものの、その後も緊密な人的往来や文化交流など民間レベルの積極的な交流を継続し、更に重要な経済パートナーとして良好な関係を構築してきた。本県においては、本県特産品の梨の穂木の輸出をきっかけとして交流が始まり、2000年に知事が訪問して以降、農業、観光、スポーツ、文化など、民間交流を含め、多岐にわたる分野で台中市を中心とした地域との交流が続いている。そうした積み重ねの中で、2017年には、台中市観光旅遊局長と本県観光交流局長が観光交流協定を締結し、2018年には、台中市長と本県知事の間で、友好交流協定を締結し、様々な分野でより一層の協力関係を維持・発展させることとなった。

県議会としての台湾への公式訪問は、2004年から始まり、台中市とは合併前の台中県時代を含め、2005年から2019年までほぼ毎年のように訪問して交流を積み重ねており、コロナ禍により3年間中断していましたが、昨年度に訪問を再開し、今回で通算13回目を迎えたところである。

今回の訪問団は、台中市政府の表敬訪問のほか、台湾日本関係協会や日本台湾交流協会を訪問し、日台の地域間交流や日本へのインバウンド動向、観光交流等について意見交換を行った。台湾瓦克国際股份有限公司では、県農産物の流通状況、販路拡大の可能性について御意見を伺い、地元スーパーの裕毛屋では、店内における日本各県産品の販売現状を視察するとともに日本産青果物や加工食品等の取扱・販売状況、県産品の一層の定着化や販売拡大等について意見交換を行った。台日産業推進センターでは、台湾におけるDX関連事業と県内企業との事業連携の可能性について、台中市立日南国民中学校では、教育旅行をきっかけとした学校間交流の推進、中華民国自転車騎士協会では、台湾体育運動大学学生を交えてサイクリング文化の醸成の取組、サイクルイベントを通しての交流の可能性について、台中市温泉観光協会では、温泉地交流の更なる深化と温泉観光地のブラ

ンド力向上について意見交換を行った。更に、タイガーエア台湾では台湾への直行便の就航についてお話を伺った。

以下、これらの概要と成果を報告する。

はじめに、台湾からの観光振興やインバウンド誘客の促進に関する現状と今後の可能性について、現地調査に基づく所感を述べたい。

日本と台湾との交流を支援する実務機関として、必要な役割を担う台湾側の台湾日本関係協会及び日本側の公益財団法人日本台湾交流協会によると、昨年（2023年）の台湾における海外旅行者は約1,086万人、そのうち訪日旅行者は約420万人と渡航者全体の約38%を占めており、コロナ禍前（2019年）の約8.5割まで回復しているとのことである。

訪日台湾人数と訪台日本人数は、コロナ禍前は2～2.5倍の開きであったが、現在は3～4倍に開きが拡大し、台湾から日本への旅行者が日本から台湾への旅行者の人数を大幅に上回る状況となっている。コロナ禍で中止されていた日台直行路線についても、現在、急速に再開されてきており、チャーター便を含めて日本の24空港で台湾への直行便が運航されている。主に地方便が多く、日本国内での乗り継ぎなく各地へアクセスできることが人気となっている。

台北の空港では、日本からの地方便の乗り入れが多く、滑走路の離発着枠が限界に近づいているとのことで、このような現状を踏まえると、例年就航が実現しているチャーター便を積み重ね、早期に定期便化する取組が重要である。そのためにも、安定的に高い搭乗率を確保し、インバウンド・アウトバンドを両輪として双方向の交流拡大に取り組む必要がある。

タイガーエア台湾を訪問した際も、台湾桃園空港－米子鬼太郎空港の直行チャーター便に向けて全力で取り組んでいるところであるので、鳥取県においてもインバウンド・アウトバンドの需要が伸びていくよう旅行商品造成の働きかけやPRの準備を進めていただきたいと要請があったところである。

日本政府観光局の調査では、訪日台湾旅行者の観光目的は、自然景観や自然体験、食、温泉のほか、イベントや日本の伝統的な祭りなど文化や歴史などが挙げられている。本県には、鳥取砂丘や大山、山陰海岸などの自然景観や自然を感じながら宿泊できるグランピング施設、カニや鳥取和牛、梨などの海産物・農産物、県内各地の良質な温泉、台湾で人気の名探偵コナンなどのポップカルチャーに触れられる観光地など、台湾からの訴求力の高い、魅力ある観光資源が多くある。

山陰は観光庁の「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」のモデル観光地に選定されており、このような観光資源や本県ならではの食を効果的に組み合わせて、ガストロノミーツーリズムの推進を図ってはと考える。鳥取県でしか体験できないような特別感がある魅力的な周遊ルートを造成し、新たな高付加価値旅行者の訪問先として選ばれる取組が必要である。また、様々な機会を捉えてPRするなど更に継続的、積極的な情報発信が必要であり、2025年に開催される関西・大阪万博など、本県周辺地域における大きなイベントに合わせたインバウンド誘客強化、地域内外での広域的に連携した情報発信、周遊ルートを造成するなどして、本県の魅力の認知度を向上させるとともにイベント後におけるリピーター増加に繋げる取組を行う必要がある。さらに、2025年に日台観光サミットが鳥取で開催されることを契機に、観光面、交流面において取組を強化し、本県の知名度を更に向上するよう取り組むことが肝要である。

また、情報発信の手段として、観光旅行者などのニーズの変化も踏まえながら、個人旅行者にも

きめ細やかな情報発信が可能なデジタルプロモーションの活用なども有効ではないかと考える。

さらに、台湾からの受け入れに向けて、訪日旅行者からの要求が高いスマートフォン向けアプリケーションの交通情報、観光地、宿泊・文化・商業施設などによる多言語化の実施や支援及び観光案内所における提供情報の質の向上、あるいは台湾国内では普及されている交通系ＩＣカード、キャッシュレス決済についても利便性を高め、様々な観点からストレスフリーな受入環境を整備していく必要がある。

台湾との航空路の定期便化を実現するためにも、本県からのアウトバウンドも重要である。観光交流だけでなく教育旅行や学校間の交流、両地域のイベント交流などを図るとともに、産業界など様々な分野においても両地域が相互に連携し関係を密にしていくことが必要であると考え。

また、台中市政府において、昨年度の訪問団で、台湾観光旅遊局を訪問した際にも提案いただいたが、両地域で親和性の高いサイクリング、ウォーキング、ハイキングなどのアウトドアで連携して、交流を図っていききたいと、改めて提案いただいた。台湾桃園空港-米子鬼太郎空港を結ぶ直行便が就航した際には、本県県議会議員による「鳥取県議会自転車活用推進議員連盟」で台中市のサイクリングルートを行くなどの交流を検討したいと提案した。本県が目指しているナショナルサイクルルート指定に向けたＰＲや機運醸成に向けて、イベント交流を図るなどして、本県のアウトドアの魅力を台湾に情報発信していくべきである。

アウトドアツーリズムの他にも、本年４月に台中市内に国家漫画博物館が開館したとのことで、「まんが王国」である本県とまんがを通じた交流も促進していきたいとのことで、今後、まんがによる連携の広がりを持つことができればと考える。

台湾と本県両地域の観光資源の１つである温泉交流について、谷関温泉において台中市温泉観光協会と意見交換を行い、本県と同じ観光資源を持つ地域として、交流を深化させていきたいとのご意見を伺った。台中市温泉観光協会は三朝温泉旅館協同組合と交流促進協定を締結しており、本年９月には鳥取県で開催された「鳥取すごい！ライド」に参加され、民間レベルで様々な機会を捉えて交流を深めているところである。このように交流を深化させていくことで、様々なレベルで交流が広がり、誘客に繋がっていくものと考え。

次に、民間団体によるサイクリング文化の醸成の取組及びサイクリングイベントを通じた交流の可能性について、所感を述べる。

台湾のサイクリング愛好者によって設立された中華民国自転車騎士協会（台湾サイクリスト協会）及び同協会の何麗卿秘書長が海外のサイクリング文化について講義を行っている台湾体育運動大学を訪問し、国際サイクルコースの授業の視察及び受講学生と意見交換を行った。

大学の講義では、「鳥取すごい！ライド」、「鳥取うみなみ250」「サイクルカーニバル」などのサイクルイベントをはじめ、鳥取うみなみロードや大山付近のサイクリングルートについて、同協会の何麗卿秘書長から、特に季節ごとに景色が変わる大山のルート、海岸線を走行する鳥取うみなみロードの魅力は高く評価できるもので、観光、地域の食、文化など短時間に様々な体験できるコースは台湾人に好まれるルートであると紹介があった。また、鳥取県のサイクリングルートを台湾で発信していく上で、ナショナルサイクルルート指定は看板的な存在になる。是非、指定を目指していたきたいとの応援の言葉をいただいた。

また、この授業の中で、10名を超える台湾体育運動大学の学生が来年の「鳥取すごい！ライド」

に参加を希望し、台湾サイクリスト協会と交流がある裕毛屋の謝社長が希望する学生全員が参加できるよう準備を進めるとのことので、大会参加の受入れについて配慮いただきたいとの要請があった。学生の受入環境を整備するとともにこの機を捉えて県内の大学でサイクリング活動を行っている学生との交流の機会を持つなど学生同士によるイベント交流を広げることで、県内のサイクルツーリズム推進の機運醸成につなげていくべきである。

さらに、台湾サイクリスト協会は、サイクルイベントの企画・運営や観光客をターゲットにしたプロモーション活動を行っており、その影響力は非常に大きいと考える。この協会と連携し、台湾のサイクリストを本県主催のサイクルイベントに招待することは、本県のサイクリングルートの魅力台湾市場に発信するうえで大変効果的であると考え。特に、台湾の参加者にイベントを通じて本県の豊かな自然や地域文化、サイクリング環境の素晴らしさを体感してもらい、その体験を台湾国内で積極的に情報発信してもらうことで、台湾のサイクリストや観光客をターゲットとした誘客促進につなげることが期待される。SNSや台湾国内のサイクル関連イベントを通じたプロモーションを協会と連携して行い、本県の認知度向上を目指すべきである。

次に、台湾における官民が連携した災害時対応の取組について、所感を述べたい。

台中市政府との意見交換後、台中市政府玄関前広場で住民参加型の避難訓練が実施されており、多くの幅広い年齢層の市民が避難訓練に参加しているのことに驚かされた。

台湾ではボランティア団体やNPOが災害対応で非常に重要な役割を果たしており、Tzu Chi（慈済基金会）などの団体は、救援活動や被災者への支援物資の提供を行い、政府と連携して被災地の復興に貢献している。本年4月の台湾花蓮県で発生した地震に際しても、地震発生から1時間で市と各支援団体をつなぐSNSグループが立ち上がって必要な物資の情報交換が始まり、2時間後にはテントの設置、3時間後には被災者を受け入れ、4時間後にはほとんどの設備が整った避難所が6か所設置され、ボランティア団体やNPO団体による迅速な対応がなされている。

台中市政府によると、地方自治体は地域ごとに災害対応計画を策定し、住民参加型の避難訓練を定期的に行っており、特に高齢者や障がい者など、支援が必要な人々の対応策を強化している。また、一般市民が災害ボランティアとして活躍できるよう、訓練プログラムが実施されており、ボランティアは政府から必要な装備や支援を受け、災害時に即座に対応できるようにしているとのことである。

台湾では官民が一体となり、ボランティア団体と連携して迅速かつ効果的な災害対応ができる体制が整備されており、一般市民の防災意識の高さが伺える。このような行政と民間が連携して災害時には即座に行動に移せる体制づくりを行うことは重要であり、また、住民が主体的に参加する防災教育やボランティア活動による迅速な対応が災害に強い社会を築くためのカギとなると考えることから、本県の災害対応・防災教育の取組を強化していく上で参考とし、本県においても官民の連携体制のあり方を検討していくべきと考える。

次に、台湾における県産農産物などの輸出拡大・販路開拓等について、所感を述べたい。

青果物輸出入貿易業者である台湾瓦克國際股份有限公司を訪問し、鳥取県産二十世紀梨をはじめとした県産農産物の流通状況及び販路拡大の可能性について伺った。

台湾の梨の市場において、人気が高いのは鳥取県の二十世紀梨、大分県の新高梨で、中秋節前に

収穫ができる新甘泉となつひめも少しずつ有名になってきているとのことである。台湾で皮が緑色の梨は品種としても生産量としても限られているため人気があり、二十世紀梨やなつひめなどの梨は今後も需要は高く、継続していける商品であるとのこと、安定した供給を行うことが可能であれば、今後、販路拡大の可能性も期待できると感じた。

しかしながら、過去の台湾訪問で日本農産物を広く取り扱う企業からも指摘されていた鳥取県産の梨の品質について、選果レベルが落ちてきており、また選果場によって品質にばらつきが見られ、鮮度が良くないものが混ざっているとの意見を伺った。一方、選果場に光センサーを導入し、品質管理を徹底している日本の他県の事例を挙げ、このような品質の高い農産物は台湾でも人気が高く、高値で販売されているとのことであり、台湾で販路拡大をしていくのであれば、品質管理を徹底すべきとの意見をいただいた。

台湾において輸入品の梨は贈答用・高級品としてのニーズのため、高品質を保つことができない商品は、取引に繋がらないとのことである。「二十世紀梨と言えば鳥取県」というブランドイメージを継続させていくためにも農協などの関係機関と情報を共有し、県として積極的に関与して対応について検討いただきたい。

高品質な日本の農産物を取り扱う高級スーパーの裕毛屋公益店では、店内に日本各地の特産品をはじめ9,000品目を超える「無添加」自社開発商品が陳列されており、本県の特産品である新甘泉や輝太郎なども並んでいた。台湾内の市場には多くの日本産農産物が流通している状況にあり、無農薬や無添加で高品質の商品や地域の特性を打ち出したその地域ならではの農産物は高価な値で取引されている。取り扱う商品に対して厳しく品質管理をしておられ、輸入元の日本の業者に対しても厳しい要求をすることもあるとのこと、継続して高品質な商品を提供するところは要求に対しての対応も良いとのことである。

日本の各自治体からの同じような特産品がある中、国内の他地域の農産物と差別化を図ることが課題であり、有機農産物など現地のニーズに合わせて高品質な商品を継続して安定的に供給できる体制を県としても検討していくべきである。

次に、教育旅行の現状と学校間交流の促進について、所感を述べたい。

台湾における海外への教育旅行先として日本は人気が高く、海外教育旅行のうち訪日校のシェアは8割と非常に高い。また、台湾からの訪日教育旅行は年々増加傾向にあり、若年層の交流拡大が、地域間の相互交流や将来の観光誘客に繋がることが期待されるものである。台湾から教育旅行で多くの学校が日本に訪れる中、鳥取県が交流先として選ばれるよう門戸を開けておくが肝要である。

また、グローバル人材の育成に力を入れている本県においても国際交流により国際理解を深め、地域や国際社会で主体的に活躍できる人材の育成に繋がるものとする。

今回、訪問した台中市立日南国民中学校によると、台湾における教育旅行は少人数のホームステイ参加が主流であり、単なる観光や交流ではなく、教育的要素が高いもので、学びの深さや実体験を重視する傾向が強く、そのため日本独特の「生徒会活動」や「部活動」、「地域文化体験」などが好まれるとのことである。

台中市とは2005年から青少年（中学生）の相互派遣事業を行っており、県内の様々な中学校の生徒が交流事業に参加しているところである。このような交流を継続し、事業内容なども教育的要素も考慮しながら、充実させてはどうかと考える。1度の訪問で終わらせることなく、オンライン交

流などを通じて、継続的な交流を行い、相互に交流を深めるような取組も必要であるとする。

また、同校の校長から学校間交流について更に広げていきたいとのことで、学校間交流を広げていくに当たって、現在、教育旅行や学校間交流を行う場合、国際交流関係の部署が窓口となり調整を行っているが、教育関係部局も一緒となり教育的な観点から交流を促進するため連携していきたいとの要望をいただいた。さらに、教員同士の交流も希望されており、三朝中学校の教員が日南中学校で授業し、日南中学の先生が三朝中学校で授業を行ったことから生徒間の交流も始まった例を挙げ、交流先の学校で交流元の教員が授業を行う取り組みについても拡大していくことができればとの提案もいただいた。

教育旅行や学校間交流の教育的価値を高めるためにも教育関係部局が橋渡しとなり、学校などと連携して交流の幅を広げていく必要があると考える。加えて、学校と地域が一体となり、双方の継続的な関係を築いていくことが必要であり、継続的な国際交流を足がかりに、将来の観光リピーター獲得による地域振興に繋がることを期待するものである。

さらに、訪日教育旅行の受入に豊富な経験を有する旅行会社や台湾の小・中・高等学校の教育旅行や国際交流の調整等を行う現地の教育関係者から組織される「台湾国際教育旅行連盟」などとも繋がりを持ち、様々な取り組みの情報を入手しながら教育旅行の幅を広げることも考えられる。

次に、台日産業推進センター（TJIC）の取組と日台のDXにおける事業連携の可能性について所感を述べたい。

台日産業推進センターは、半官半民のシンクタンクである財団法人資策会という組織に属し、日本と台湾との連携を促進させるため、日台産業及び地方自治体交流の推進・産業相互利益の創出、地方経済の円滑化・国際輸出の拡大など、日台産業発展におけるビジネスチャンスの創出や環境づくりに取り組んでおり、台湾DXの経験や台湾ICT産業の紹介なども、日本向けに発信されている。

台湾において実績を持つDX技術として、鳥獣被害対策システム、AI翻訳システム、飲食店におけるAIによる空席案内システム、無人店舗、AI電子黒板、遠隔医療・介護など各産業における事例が様々紹介され、また日本の自治体や企業と連携して実証実験を行い、実証化に向けて取り組まれているものもある。本県においても製造業界、運送業界、福祉業界など幅広い分野でデジタル技術やデータ活用によるDXを推進している中、台湾とのDXにおける事業連携等により、県内企業における更なる競争力の強化、新しいビジネスモデルの参考になると感じた。

台湾は日本より少子高齢化が深刻化しており、労働力確保が課題となる中で、DXによる人手不足を補う技術として、特に医療・健康・介護分野におけるDX連携の需要は高く、今後、医療人材・介護人材の確保がより一層困難になると予想されている中、更に需要が伸びていく分野であると考ええる。

本県も、同じ少子高齢化という社会課題に直面しており、このような様々なソリューションについて、本県企業との連携を探り、鳥取県内企業の持続可能な成長に繋げていくべきである。

最後に、今回はじめて訪問した台湾瓦克国際股份有限公司、台中市立日南国民中学校、中華民国自転車騎士協会、台日産業推進センターをはじめ、お忙しい中にもかかわらず意見交換に快く応じていただいた台湾日本関係協会、日本台湾交流協会及び台中市政府、裕毛屋公益店及びタイガーエ

ア台湾など、快く訪問を受け入れ、熱烈な歓迎をしていただいたことに感謝したい。これまで培ってきた日本と台湾の絆の深さと協力関係が築かれてきた成果が健在であることをあらためて実感したところである。

議会としても、引き続き、台中市をはじめとした台湾との間で、自治体交流、農業、教育、スポーツ及び青少年交流等の分野において親密な協力関係を継続・発展させていくとともに、我々の悲願である定期便の実現に向けた働きかけなど観光を含めた人的交流や物流の更なる加速化など、様々なレベルで台湾との交流を積極的に推し進めていくべきと考える。

今後、今回の台湾訪問から得た成果に基づき、さらなる情報発信や政策提言を行い、日台間のさらなる友好親善と相互交流の発展に尽力することを誓い、所管及び県政に対する提言とする。

4 日程表

| 月 日 | 日 程 | 移 動 | 宿 泊 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------|
| 10月28日 (月) | 08:55 米子鬼太郎空港→羽田空港 09:00 鳥取砂丘コナン空港→羽田空港 13:20 羽田空港→台北松山空港 18:00 ・台湾日本関係協会《意見交換》 | NH384 NH294 NH853 借上バス | 台北市内 |
| 10月29日 (火) | 09:30 ・日本台湾交流協会台北事務所《意見交換》 10:45 ・台湾瓦克国際股份有限公司《意見交換》 12:00 ・台日産業推進センター《意見交換》 14:30 台北→台中 17:30 ・台中市温泉観光協会《視察・意見交換》 | 借上バス 借上バス 借上バス 高速鉄道 借上バス | 台中市内 |
| 10月30日 (水) | 10:30 ・台中市立日南国民中学校《視察・意見交換》 12:00 ・裕毛屋公益店《視察・意見交換》 14:00 ・台中市政府《表敬・意見交換》 15:00 ・中華民国自転車騎士協会・台湾体育運動大学 《視察・意見交換》 | 借上バス 借上バス 借上バス 借上バス | 台中市内 |
| 10月31日 (木) | 08:40 台中→台北 ※台風21号が台湾本土に上陸したことにより、 現地調査・視察中止 | 高速鉄道 | 台北市内 |
| 11月1日 (金) | 09:30 ・タイガーエア台湾《意見交換》 13:30 台北松山空港→羽田空港 19:10 羽田空港→鳥取砂丘コナン空港 19:55 羽田空港→米子鬼太郎空港 | 借上バス NH852 NH299 NH389 | |

5 訪問先の概要

令和6年10月28日(月)

(1-1) 台湾日本関係協会(台北市)

〔応対者〕 陳 志任 副秘書長、姚 品均 薦任科員、李 碧娟 科長

台湾日本関係協会主催の夕食会を開催していただき、日台間、とりわけ本県が取り組む地方政府間のさらなる交流推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

○ 陳 志任 副秘書長 あいさつ

- ・ 台湾における日本との地方交流という、私の若いころは鳥取県だと先輩から教えられていた。片山知事のころから懇意にさせていただき、いち早く国際交流員を導入されたのも鳥取県であった。今となつては、こぞいろいろな自治体が地方交流と言われるが、我々にとっては鳥取県が一番最初の地方交流だと思っている。
- ・ 鳥取県との関係は、行政はもとより議会との関係も大事である。鳥取県側は、引退された常田さんからずっとこの台湾との関係に尽力いただいている。
- ・ 鳥取県と台湾との交流はこれからもっと多分野に広がっていくと思われ、先生方の力添えをいただきながら、もっと絆が深まるように我々もお手伝いさせていただきたい。

○ 意見交換

- ・ 台湾から鳥取県へのインバウンドはかなりある。鳥取県からもっと沢山台湾に来ていただければ、相互に交流することができる。
- ・ 歴史に関しては、台湾政府も注力しており、台湾国内だけでなく、多くの方に見てもらえるよう後世に残す取組が行われていることから、教育旅行にもっと台湾を使っていただければと思う。
- ・ 今後の台湾－鳥取間の直行便がさらに進み、定期便化すればかなりの誘客が見込まれるが、航空会社も搭乗率で経営判断していくことから、搭乗率を挙げて維持していくことが重要である。
- ・ 台湾の富裕層は、旅行先で田舎を好む傾向があるが、中でも名探偵コナンや砂丘がある鳥取県は特に人気がある。
- ・ 定期便が実現すれば、台湾の富裕層であれば鳥取県やその周辺で休日を過ごしたり、1～2週間の長期滞在も考えられるとともに、ビジネスにおいても予定が組みやすいことがメリットとなる。
- ・ 台湾への観光については、大陸本土からは大きく減少する一方で韓国は増加傾向である。



陳 副秘書長(左)と斉木 団長の記念撮影

令和6年10月29日(火)

(2-1) 公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所(台北市)

〔対応者〕堀江 拓水 経済部主任

公益財団法人日本台湾交流協会台北事務所を訪問し、日台交流の概況、特に日台間の定期航空路線を巡る情勢や旅行需要の状況、少子高齢化への取組などについて、説明を受け意見交換を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

○ 概要説明

- ・ 訪日台湾人数は日本側より4～5倍多く、アウトバウンドとインバウンドが不均衡な状況となっている。
- ・ 訪台日本人数の伸び悩みの要因として、コロナ後の円安などによる航空代、燃油代の大幅な増が挙げられる。
- ・ 日台路線は、コロナ後に急速に回復してきており、特に地方便が多いうえ、乗り継ぎなくアクセスできる直行便が人気である。
- ・ 日本の24空港で台湾への直行便が運航されている。日本以外の国の便もあることから、台北の空港では、滑走路のフル稼働が近づいている。
- ・ 2023年における訪日中の旅行消費額は台湾が1位で、コロナ前の2019年比で42%増加している。また、1人当たりの旅行消費額の平均も2019年比で58.3%増加している。中でも買い物額の増加率は大きく、2019年度比で+64.5%となっている。
- ・ 旅行費用の高騰により、1度の滞在でしっかり楽しみたいという長期滞在が多くなっている。
- ・ 最近の統計を踏まえると、今年度中に台湾の1人あたりGDPは日本を超えることが予想されている。

○ 意見交換

- ・ 鳥取県からの直行便があれば、旅行の企画が立てやすくなると思われる。例えば米子空港から定期的に直行便が就航することになれば、修学旅行などの教育旅行についても企画しやすくなる。



堀江 主任(左)との記念撮影

- ・ 台湾と鳥取県の各市町で交流が進んでいたり、日本統治という歴史的な背景もあったりと、教育旅行で訪れるにはいろいろなコンテンツがそろっている。鳥取県側からもっと呼びかけ売り込みをしていただけたらと思う。
- ・ 以前から日本での冬山スキーは人気が高いが、近年は自分たちが知らない日本への需要が高くなっており、例えば台湾の富裕層では、日本の田舎での体験型旅行は人気となっている。
- ・ 台湾は、現在、日本以上に少子高齢化が進んでおり、出生率を見ると日本が1.22、台湾が0.8といった状態である。2040年には日本を超え、世界一の高齢国家になると予想されている。
- ・ 少子高齢化の進展による労働力不足を補うため、I TやA Iを積極的に導入・活用する動きがある。
- ・ 台湾では、特にヘルスケア産業でのI T化、A I化に関心が寄せられており、日本技術を輸出できるコンテンツの1つになると考える。今年度の台湾医療ヘルスケアの展示会では、日本から10社も出展があり、即日に1社と契約がまとまるほど今後の発展が期待されるところ。

（２－２）台湾瓦克國際股份有限公司（台北市）

〔応対者〕 李 昭志 部長

台湾国内における鳥取県産農林水産物の販売実情と拡大可能性について意見交換を行った。
主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 台湾の梨の市場において、人気があるのは鳥取県の二十世紀梨、大分県の新高梨である。中秋節前に収穫ができる新甘泉となつひめも少しずつ有名になってきた。
- ・ 台湾で皮が緑色の梨は量が多くないことから人気がある。二十世紀梨やなつひめなどの梨は今後も需要は高いまま、継続していける商品である。
- ・ 新甘泉は二十世紀梨に比べて流通量が少なく単価が高い。赤梨であれば、台湾国内のものの方が安く人気がある。また、長野県の信州、南水梨が流通しており、赤梨の新品種の参入は難しい状況にあると思われる。
- ・ 鳥取県から輸入する梨について、選果レベルの低下や選果場によるバラつきに加え、なかには品質が良くないものや鮮度が悪いものが見受けられる。
- ・ 輸送に日本から台湾まで2週間程度かかるが、その間に二十世紀梨が熟れて黄色っぽくなると価値が下がってしまう。また、収穫や出荷の際に少しでも梨に傷がついてしまうと輸送の間に痛みが進んでしまう。
- ・ 台湾の消費者は皮が緑の梨が高級品として重宝される。赤梨であたご梨は大きくて人気が

あるが日持ちが短い。飛行機を利用すると採算が合わない。

- ・ 青森県のリンゴは品質管理がしっかりしていて、台湾でも人気が高い。青森県は選果場に光センサー選果機などを導入して品質管理を徹底している。



(左) 李 部長(左端)による説明

(下) 調査の様子

- ・ 柿については、台湾への輸入量は多くなく、日本の半分以上の価格で売られている。柿は輸入の際の燻蒸により熟れて柔らかくなってしまう。生ではなく、あんぽ柿などの加工品の方が良い。
- ・ 日本米は台湾の米よりおいしいが、価格が高いことから、一般家庭向けの消費ルートはなかなか困難。
- ・ 台湾における農家労働者の高齢化や産地の人手不足については、政府が若い世代の後継者へ技術指導するなど人材育成や就農支援を行っている状況。また、政策的に海外から労働者を募集するなど継続可能な体制づくりを進めている。
- ・ 加工品などにも力を入れ、観光客向け商品を作るなど農作物に新たな付加価値を与え、農家の収入を増やす取組も行っている。
- ・ 和牛も有名であるため興味はあるが、登録されたと畜場での処理が必要であるなど、日本の窓口となるつなぎの業者探しがネックと認識している。



(2-3) 台日産業推進センター（台北市）

〔応対者〕 葉 武松 副主任、林 英昱 組長、高 沛潏 マネージャー、黃 建勳 企画師

台湾のDX関連事業の状況及び企業に対するDX化の推進支援の取組や、日本と台湾のDXにおける事業連携等について意見交換を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 台湾のDX事業により、台湾と日本の企業間交流を促進し、台日の産業の高度化を促進させるとともに、台日相互の技術を補完し合うことを目的としている。
- ・ 鳥獣被害対策のソリューションを提示するだけでなく、DX技術の事業連携が可能な案件として、観光客向けのソリューションの開発では、例えば、ソーラーパネルを利用したバ

ス停や観光案内板、飲食店関係では空席案内、教育ではA I 電子黒板、ヘルスケアとしては、病室のカメラセンサー、病室の患者データ解析、センサーリングによる患者の転倒検知など、人手不足の補完機能として開発を進め、企業とのマッチングを図っている。

- ・ 台湾と日本の各企業のマッチング事例として、外部の光を反射させて画面を表示する「電子ペーパー」を使ったバス停、生成A I を使った対話型アバターなどを扱う台湾企業4社が沖縄県国頭村で2025年3月まで村観光協会や道の駅でA I 技術の実証実験を行っている。
- ・ 台湾における高齢者のヘルスケアや農村部の医療資源不足の問題について、産業エコシステム「スマートヘルスケア産業システム」を担う台湾の麗台科技(LEADTEK Research Inc.)と日本の一般社団法人ウェルフェアおきなわが協力し、台湾の産業システムのノウハウを日本へ試験的に導入することで、台湾・日本の両国の医療問題の解決に向けた連携を図っている。



- ・ デジタル人材の確保については、いくつかの国内大学と TSMC が連携した半導体学院という半導体産業の専門知識を学びその分野へ就業することが可能な学校やA I を学ぶためのA I 学院などや、社会人になってから新産業分野を学びたい方は、研究所での勤務や大学研修を利用されることが多い。
- ・ T SMCの日本工場をきっかけとして、台湾と日本の大学間連携も出てきている。これは各大学の人材の取り合いではなく、講師交換の交流を通じたそれぞれの国の人材育成を目指した取組となっている。

(2-4) 台中市温泉観光協会（台中市）

〔応対者〕 羅 進洲 理事長、蘇 冠霖 事務局長 ほか

台中市温泉観光協会主催の歓迎夕食会を開催していただき、鳥取県と台中市のさらなる観光交流の推進等について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。また当日の様子は台湾のネットニュースとしても配信された。

【主な懇談内容】

- ・ 鳥取県と台中市における共通の観光資源である温泉については、両州市間で温泉観光友好交流協定を締結することで、本県三朝温泉と台中市谷関温泉が交流を深めているところ。
- ・ 谷関温泉は中国からの団体客が多く、比較的年齢層が高い宿泊客が多い。一方で台湾の若者の中には、谷関温泉独特の硫黄の匂いが苦手な方があるとともに、同温泉が山間部奥地に位置していることから、周遊観光を目的とする旅行者にとっては、時間距離が長く敬遠される場合もある様子。
- ・ 日本と同様に台湾も高齢化が進んでいることから、温泉に入ってゆったりとする文化を好む高齢の方にとっては、本温泉地は今後ますます人気スポットになり得ると考える。
- ・ 谷関温泉周辺には登山のコースが7つあるため、温泉と登山を組み合わせた観光ルートを検討することで、今後の同温泉地の発展が期待されること。
- ・ 双方の長きにわたる温泉文化をつなげることで、日本の多くの観光客を招き入れる可能性を感じた。
- ・ 谷関温泉と三朝温泉の相互交流が進められることで、温泉資源を活用した観光経営などに関する情報共有が一層図られ、双方の観光がより発展するように今後も連携していきたい。
- ・ 鳥取県から台湾への直行便が就航されることとなれば、より身近な観光地としての交流が期待される。



台中市山間の奥部にある谷関温泉



齊木 団長の挨拶を聞く羅 理事長(中央)と協会関係者



台中市温泉観光協会の皆様との記念撮影

令和6年10月30日(水)

(3-1) 台中市立日南国民中学校(台中市)

〔応対者〕 台中市立日南国民中学校 鄭 清峰 校長、
台中市議会議員 李 文傑、楊 啓邦、施 志昌 ほか

台中市内中学校における国際交流の取組や、教育旅行をきっかけとした本県学校間の交流のさらなる発展について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

- ・ 本校は、今年、鳥取県琴浦町の中学校と交流を開始した。鳥取県三朝中学校の生徒はサマースクールで訪台し、台中の中学校と交流を行っている。
- ・ 台湾では他国との学校交流を行う場合、自治体からの支援がなく保護者への負担が多いことから、PTAの協力が不可欠となっている。
- ・ 台湾では、国際教育は学校教育の一環であるため、「交流」という分野が入っていないが、台湾側の先生が日本の中学校に行って授業を行い、また日本側の先生が台中の中学校に来て授業を行うという取組を行っている。
- ・ 学校間交流を行う際、行政側の交流も重要であり、これまで鳥取県とは観光部局と調整を行ってきたが、交流の幅を広げるために教育部局とも一緒に取り組みたいと考えている。
- ・ 生徒間の交流については、大人数の修学旅行的なものは政府の支援がなく、経済的な理由で参加できない学生がいるため、一般的には困難である。しかし、少人数であれば、ホームステイ的に日本の日常生活の中に入り、日本の文化や生活様式を体験することが可能であるため、望ましい形と認識している。
- ・ それぞれの生徒がそれぞれのホームステイ先での体験を共有することも意義ある教育活動と考える。
- ・ 台湾でも鳥取県ふるさとキャリア教育のような取組をしているが、都市部への人口流出は課題視されている状況。一方で、地元専門高校から地元就職という進路選択よりも、高校から大学へ進学し、地元へ戻って就職という進路のほうがスタンダードである。



鄭 校長による説明



楊 議員による学生の進路選択の説明



台中市内中学校の国際教育に関わる皆様との記念撮影

(3-2) 裕毛屋（公益店）（台中市）

〔応対者〕 謝 明達 社長、姜 甜香 社長秘書、王 煜光 公益店店長

日本の地方自治体との連携に熱心であり、台中市等で高級スーパーを展開する裕毛屋の公益店において、店内の販売状況を調査するとともに、今後の鳥取県産品の輸出・販路拡大策について意見交換を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 裕毛屋は、日本から輸入された高品質な食品、無添加自社製品を多く取り揃えており、台湾内だけでなく近隣国の健康志向の客層も訪問する高級スーパーとなっている。
- ・ 台湾産の商品はほぼ自社製造されることから、真空パックや冷凍食品が多く、徹底した品質管理から購入者の安心感にもつながっている様子。
- ・ 包装に透明な真空パックを使用することで、経費や環境に配慮するとともに、客にとっても商品そのものの価値で購入判断できる機会を提供している。
- ・ 最近は弁当などのデリバリー関係がかなり伸びており、客が選んだものを販売するので廃棄も少なく、また不足があれば自社製冷凍食材を活用するため、本企業の体制としても適用しやすいものとなっていた。
- ・ 日本の各自治体へ物産展の開催スペースを提供することで、自治体関係者が売場に立ち、消費者の反応や生の声をダイレクトに把握できるなど協力的である。なかでもトップセールスは商品の売れ行きに大きく影響しており、例えば長野県のりんごは空輸送料を反映し高額であっても売れる状況にある。事実、大量に準備しても、2週間程度で売り切れることがあるとのこと。
- ・ 日本の安全な一流の食品として、鳥取県の食材(梨、和牛、トマトジュースなど)も多く販売されていた。
- ・ 販売価格が高くても購入可能な客層であることから、生産者にもしっかりと恩恵が行き渡る仕組みとなっていた。



店内にて謝 社長(左端)による説明



真空パックで包装された刺身



無添加・健康志向の弁当例



(上・左) 鳥取県産品の販売状況

(3-3) 台中市政府（台中市）

〔応対者〕 賴 淑惠 副市長、陳 育正 観光旅遊局副局長、戴 峻焜 消防局副局長 ほか

長きにわたる台中市と本県との交流を踏まえた、観光、自転車、温泉など今後の様々なコンテンツにおける交流深化の可能性や、本年4月の花蓮沖地震時の官民連携による対応状況について意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。また当日の様子は台中市政府のホームページにも掲載された。

【主な懇談内容】

- ・ 台中市と鳥取県は30年以上もの交流があるが、今後も観光、自転車、温泉、まんが、教育などについて、深い友情と希望のもと更なる交流を深めていきたい。
- ・ 台中市は、最近、国立漫画博物館を設立され、10年目となるアニメーション映画祭も引き続き開催していることから、今後の交流連携が大いに期待される。
- ・ 鳥取のサイクリングコースは大変すばらしく、多くの台湾人に訪問してほしい。一方、台中市でも様々なサイクリングコースとして、従前のコースも活用する等の整備を進めているところであり、通常の旅の方法とは異なる「サイクリング」により、地元を深く知ることや新たなグルメを発見するなどの機会へ活用してほしい。
- ・ 台中の登山は非常に盛んであり、今回の訪問先である谷関地区は中級レベルとして、7コースを整備しており、通常で4～10時間かかるものとなっている。また、同地区の登山イベントは当初700名程度であったが、最近では3万人以上が参加するほど熱気を帯びている。
- ・ 台中市における地震防災等への意識は、1999年の921大地震の直後で大きく変化しており、本年4月3日の花蓮地震の際にも、速やかに民間団体が被災者に簡易ベッドを提供し、避難所の環境整備へ動くなど、災害時の連携体制がしっかりと構築されている。
- ・ 台中市では、避難所シェルターとして決まったホテルと連携している。また、災害時に備えて、日頃から各自自治体が公民館や小学校とも連携し、被災地で必要な水や食料を常備している。
- ・ 現在、台中市は防災に関して東京都、横浜市、静岡県と頻繁に交流しているが、今後は鳥取県との防災交流も検討していきたい。



賴 副市長(中央) 及び台中市幹部との記念撮影



台中市政府との意見交換後、住民参加型の避難訓練が実施されていた。

(3-4) 中華民国自転車騎士協会・台湾体育運動大学(台中市)

〔応対者〕 何 麗卿 秘書長、高 禎翔 常任理事、林 文郎 教授

台湾における様々なサイクルイベントや、自転車文化の普及促進に向けた官民連携によるサイクルツーリズムの取組について意見交換を行った。主な調査内容は次のとおりである。

【主な調査内容】

- ・ 本協会は、台湾の高山を活用したヒルクライムイベントや、各地にある多様なコースを活用し、台湾を一周する国際的なサイクリングイベントなどを開催することで、サイクリング文化の発展と国際的競争力の向上を図っている。
- ・ (本協会の大学講義での意見) 鳥取のサイクリングは、農村における地方創生という印象を強く感じた。今後機会があれば、大学の生徒を連れて、鳥取でのサイクリングを通じた交流を深めたいと思う。
- ・ (本協会の大学講義での意見) サイクリングに興味を持つ生徒とともに、来年の「鳥取すごい！ライド」へ参加できるよう準備していきたいが、その際の受入対応について鳥取県にも協力していただきたい。



本県のサイクリング状況について説明する野坂議員



中華民国自転車騎士協会・何 秘書長(前列右から2人目)
と台湾体育運動大学の皆様との記念撮影



中華民国自転車騎士協会の皆様との記念撮影

令和6年11月1日(金)

(4-1) タイガーエア台湾(台北市)

〔応対者〕 張明璋 総経理、楊 栢源 組長

台湾―米子間の直行便の就航決定について感謝申し上げるとともに、今後も双方が協力し進めていくことについて意見交換を行った。主な懇談内容は次のとおりである。

【主な懇談内容】

(斉木正一 団長)

- ・ 今回の訪問先での繋がりや台風の影響など偶然が重なったことで、このたびお会いすることができ、大変喜ばしく思うとともに、このたびの桃園・米子間における直行便の就航について感謝申し上げる。
- ・ 鳥取県議会議員の役割として、このたびの直行便を継続していくために、台湾から鳥取へ来ていただくだけでなく、鳥取から台湾へ送り出すことについても努力すべきと考えている。

(張明璋 総経理)

- ・ これからの本路線の発展については、両者が協力し合って進めるべきと考えているが、まずは必ず来年就航することに尽力していく。また、様々な準備を進めていく中で、鳥取の魅力を多くの台湾の方へ紹介していきたいと考えている。
- ・ 新たな首相が鳥取県出身ということもあり、世界だけでなく台湾からも「鳥取」への注目が増してくるものと思われる。



意見交換の様子（右奥が張 総経理）



記念撮影